

香港の遊び場と受験

倉敷市立西阿知小学校 濱 口 隆 生

香港は、街のあちらこちらに大小様々な公園があります。どの公園にも子どもが楽しく遊べる遊具が設置されています。遊具の周りには一面にラバーマットを敷いているので、転んでも遊具から落ちててもけがが少なく、安全面にたいへん気を遣っているのがわかります。

そんな立派な公園がありながら、不思議なことに香港人の子ども達が外で元気に遊ぶ姿をあまり見かけません。

香港では幼稚園の時から、小学校受験に向けて競争が始まります。公用語である広東語には日本語のようにひらがながないため、受験のためには幼稚園児でも漢字の習得、それも日本人からするとたいへん難しく感じる繁体字の学習が必要不可欠です。そのため、漢字練習などの宿題が毎日出されます。その上、英語や中国語の学習も始まります。小学校の受験戦争を勝ち抜くために、幼稚園のうちから学習に力を入れざるを得ないという状況です。小学生になっても、日本のように放課後友達と遊ぶことはほとんどありません。宿題に追われる毎日で、中学年で3～4時間の家庭学習は当たり前だそうです。子どもの勉強をみるために、仕事を辞める母親も少なくないそうです。

学校のクラスは成績順に分けられます。年に2回ほどあるテストの点数で全てが決まり、それまでの努力や意欲はほとんど考慮されないそうです。進学先もテストの成績のよい子から選ぶことができます。

学習にこれだけ力を入れながら、運動はあまり必要ないと考えられているようで、体を動かすためのスペースがほとんどない幼稚園や学校もあります。将来のためには、遊びより勉強。香港の子ども達は、日々そんな生活を送っています。

現地の子がだれも遊んでいない公園の前に立ち、子供のうちは自由に遊ばせることも大切なのではないかと日本人である私は思っていました。

しかし、大人になって広東語だけでなく英語や中国語も流ちょうに話し、世界経済の中で大きな役割を果たしている香港の人々の姿を見ていると、それぞれの国に合った教育があり、それぞれに良さがあるのだということをあらためて感じさせられました。

